

## ていねいな暮らしのあつたころ

## 佐野二彦の撮った伊深の里山

また、昭和30年代ごろまで、この地域ではシヨウブとヨモギを瓦屋根に差し込むという風習が見られました。夜は、風呂にシヨウブ一束を入れたシヨウブ湯に入りました。子どもたちは、柔らかくなったシヨウブの葉を頭に巻いて遊びました。

※5月5日迄まで、文化の森「まゆの家」にて、鯉のぼりを立てます。また、5月3日迄から5日迄まで、シヨウブとヨモギを屋根に葺く様子を再現しています。観覧は自由です。

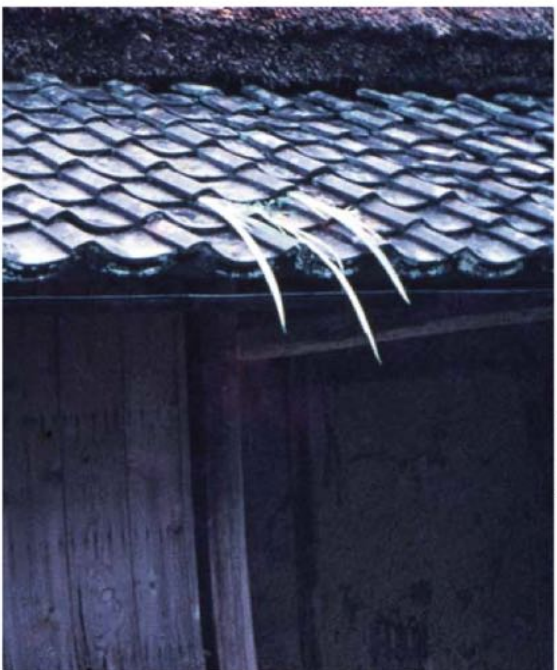


「こいのぼり」昭和38年5月2日撮影

## 「端午の節句」

5月5日には、端午の節句として男の子のいる家では、のぼり(のんぼり)や鯉のぼりが立てられました。農作業や、日常のせわしさとは別の大事な仕事で、子どもの成長を願う行事として大切に行われました。

節句に食べられるちまきは、近くの山で刈ってきたススキの葉でもちを包み、蒸して作りました。



「菖蒲を葺く」昭和38年5月5日撮影